

## 所長挨拶

# くすり，情報，図書館

うるしはら ひさし  
**漆原 尚巳**

(薬学メディアセンター所長)



2023年10月より薬学メディアセンター所長を拝命致しました漆原です。

薬学生は、卒業までに社会の薬局店舗や病院にて薬剤師のたまごとして実務実習を行い、その上で国家試験に臨みます。それまでに薬学部内で受けなければならない授業には、化学・物理・生物学などといった基礎科学から、より専門的な有機合成や成分分析といった実験を行う実験実習、調剤技術や患者応対を学ぶ臨床実習、そして医薬品の性質、作用・副作用を調べる情報検索など、幅広い学習内容が含まれます。医薬品は、その包装から出されて医薬品そのものがポツンと置いてある状態だと、見た目はただの白い粉だったり、特徴のない錠剤・カプセルの形をしていて、外観だけではくすりなのか、くすりでない他の何かであるかは判別することができません。どういう見た目をしていて、なんの病気に対して用いるのか（効能効果）、どれだけの量を服用するのか（用量）、どのように服用するのか（用法）、注意すべきこと（副作用など）は何か（使用上の注意）などといった、医薬品を特定し、その性状と使用に関する情報があることで、初めて人に使用して、病気を治すことができるのです。時計やカメラまたは自動車のように、見るだけで、または触れただけで用途がわかる、機能が理解できる多くの一般工業製品と大きく異なる特徴です。医薬品は体内に取り入れることでその機能を発揮することができる一方で、その利用に関する情報がなければなんの役にも立たない、また間違っただけで副作用などの害をなすこともあります。すなわち、医薬品とは、物質と情報の両方が揃って初めてその価値を生み出すことができる工業製品です。当方の研究室、医薬品開発規制科学講座では、薬剤疫学とレギュラトリーサイエンスという研究分野を担当していますが、医薬品にまつわるさまざまな情報またはデータを材料に医薬品の評価に関する研究を行っています。また、

薬局などでの実務実習前の学部内授業にて、医薬品に関する情報の検索方法を教えています。

インターネット全盛の現代社会では、医薬品に関する情報が溢れかえっています。医薬品を販売する製薬企業や医薬品を管轄する政府機関の医薬品医療機器総合機構や国立医薬品食品衛生研究所、または厚生労働省、海外の医薬品規制当局や世界保健機関 World Health Organization など、権威のある情報ソースから公開されている医薬品情報のみならず、医師や薬剤師が中心になって病気とその治療法に関連する健康情報をまとめ、共有する医療機関やコミュニティのサイト、営利または非営利目的で個人や企業・各種団体が運営する健康情報サイト、それ以外のSNSサービスでの医薬品や健康に関わるトピックを扱うコミュニティでの情報などに加え、医療者と学術専門家を対象とする医学薬学系の学会や学術専門誌が運営するサイト、学術論文の内容を共有・提供するサイトもあります。怒涛のような情報過多と、玉石混交の情報の質を面前に、薬学生が必要とする正しい情報を効率的に入手するには、何が手掛かりになり、どのような検索方法が最も効果的かを理解して実践する必要がありますが、一朝一夕にはできません。そのためには、ある程度の基礎知識を習得し、検索技術を学び、自らが持つクエスチョンに応える情報を的確に探し当てる必要があります。そのプロセスは真実を探索する体系化された研究として見ることもできます。

現在の図書館は、古より伝わる情報を後世へと伝えるアーカイブ機能と、最新の学術的知見を瞬時に別の場所へ移転させ新たな反応を引き起こすリアクターとして情報生成を行い共有する機能を併せ持ち、まさに人類の叡智「情報」が集結する場です。薬学生の学習と薬学部の研究を支える基盤として、より一層使いやすいメディアセンターを目指して尽力したく存じます。ぜひともご活用ください。